

ある』と信じられるような、そういう活動をしてほしいということです。あなたが、地域に“居る”ということ自体が、住民にとって心強い支えになることもあります。だからこそ、まずは鈴木さん自身が疲れないこと、無理をしないことです。そして、周りに私たち仲間がいることを忘れないでくださいね」と言っていました。

それからは、自分一人で無理をしたり、抱え込ん

だりせず、委員の仲間や地域住民の皆さんと一緒に、この街を大切にしていこうという気持ちで取り組めるようになっていったのです。

まもなく、平成 25 年 12 月 1 日の一斉改選を迎えます。その日に 53 歳の誕生日を迎える私は、もう少しだけ地域に寄り添ってみよう、民生委員を続けてみようという心を決めています。

設問

この物語について、皆さんで自由に話し合ってみてください。その際には、以下のような点も踏まえてみましょう。

STEP

- ①自分が鈴木委員と同じ新任の立場だったら、どうしていたと思いますか？
- ②自分が高橋委員と同じ中堅の立場だったら、どうしていたと思いますか？
- ③自分が田中会長の立場だったら、どうしていたと思いますか？
- ④あなたは今後、どのような民生委員でいたいと思いますか？